

馬術長町 初の全国制覇

わた SHIGA 輝く国スポ2025 馬術少年ダービー競技

千西一遇

号外

号外
(号外・速報通算 No.18)
発行
2025 年
10 月 9 日 (木)
上田西高 校
新聞委員会
編集局
編集局長：塚田 礼
新聞委員長：大澤 理子
斎藤 瑠心
菊池ひとみ



滋賀国スポ 馬術
少年ダービー競技を制した長町と愛馬のルーチャット



表彰を受ける長町

国スポ2025 馬術 結果

長町 柚愛

少年団体障害飛越競技 2位
少年二段階障害飛越競技 8位入賞
少年ダービー競技 優勝

運も味方につけ圧倒

「わた SHIGA 輝く国スポ2025」馬術が兵庫県三木市で行われ、本校1年2組の長町柚愛がダービー競技で初の全国優勝を果たした。

初日の少年団体飛越では2位。この競技では速水心選手（飯田高）と同じ馬（ハリーム）に乗り障害物を落とすことなく完走した。「同じ馬に乗るためその時のコンディションや状況を共有でき、比較的上手くいった」と長町。翌日の少年二段階障害飛越でも上位が期待できたが、結果は8位入賞となった。この競技では愛馬ハリームが最後の障害前で止まってしま

うというアクシデントに見舞われ減点16という悔しい結果となった。「馬術には運も必要だ」と長町。練習を重ねても、その時の馬との呼吸やコンディションに結果は左右される。「悔しすぎてたくさん泣いた」。しかし、「次の日のダービーで気合を入れた。乗るうちに気持ちを切り替えた」と気持ちを落ち着かせダービー競技に臨んだ。

10月2日に行われた少年ダービー競技では愛馬ルーチャットと挑み、見事優勝を決めた。前日に凶とでた連か今度は長町に微笑んだ。「減点0で帰ってきて、必ずジャンプオフ（優勝決定戦）に残る」と決意した長町は言葉通り減点0の選手のみが進めるジャンプオフに残った。今年度から競技の難易度が上がった影響もあり、有力だと思われていた選手も障害をクリアできず次々に脱落。ジャンプオフに残ったのは3人のうち、1人目は慎重

に進め、2人目は障害をクリアできずに減点。最後に挑んだ長町は減点0で軽快なハフォームンスを見せ圧倒した。

昨年の国スポで残したダービー競技での3位という記録を上回り、全国制覇という結果を残した長町。「動物が好き」とい

馬術国スポ初優勝の西高卒業生 菅平プリンス大久保専務も賛辞

本校の卒業生であり、35年前（1990年）に福岡県で行われた「とびうめ国体」の馬術競技で上田西高生として初優勝した菅平プリンスホテルの大久保専務に話を聞いた。長町のダービー競技のパフォーマンスについては「ルーチャットはパワーがあり、コントロールが難しいタイプに見えましたが、長町選手は最後まで愛馬を信じ、ルーチャットもそれに応え素晴らしい走りでした。並外れた度胸がなければできない」と絶賛。

また、「馬術競技におう理由もあり10歳で馬術を始め、毎週末上田乗馬倶楽部で練習を重ねる。全国制覇を成し遂げた直後だが、「全日本」ところに大きな大会で成績を残したい」と今後の目標を掲げ意気込んだ。これらの活躍に注目が集まる

菅平プリンス大久保専務も賛辞

菅平プリンス大久保専務も賛辞

(斎藤 瑠心)